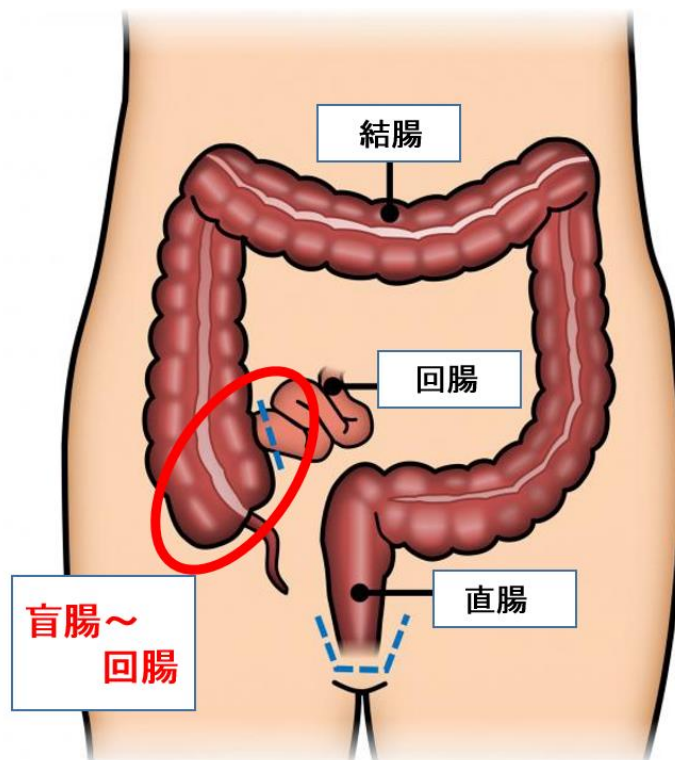


単純性腸潰瘍とは

単純性腸潰瘍は、回腸末端から盲腸にかけて、ベーチェット病で見られるような類円形の深い潰瘍を特徴とします。



20～40歳の男性に多く、難治性、再発性の潰瘍です。



口腔内アフタを随伴する場合は、一部ベーチェット病へ進展することがあり、その異同が問題となります。



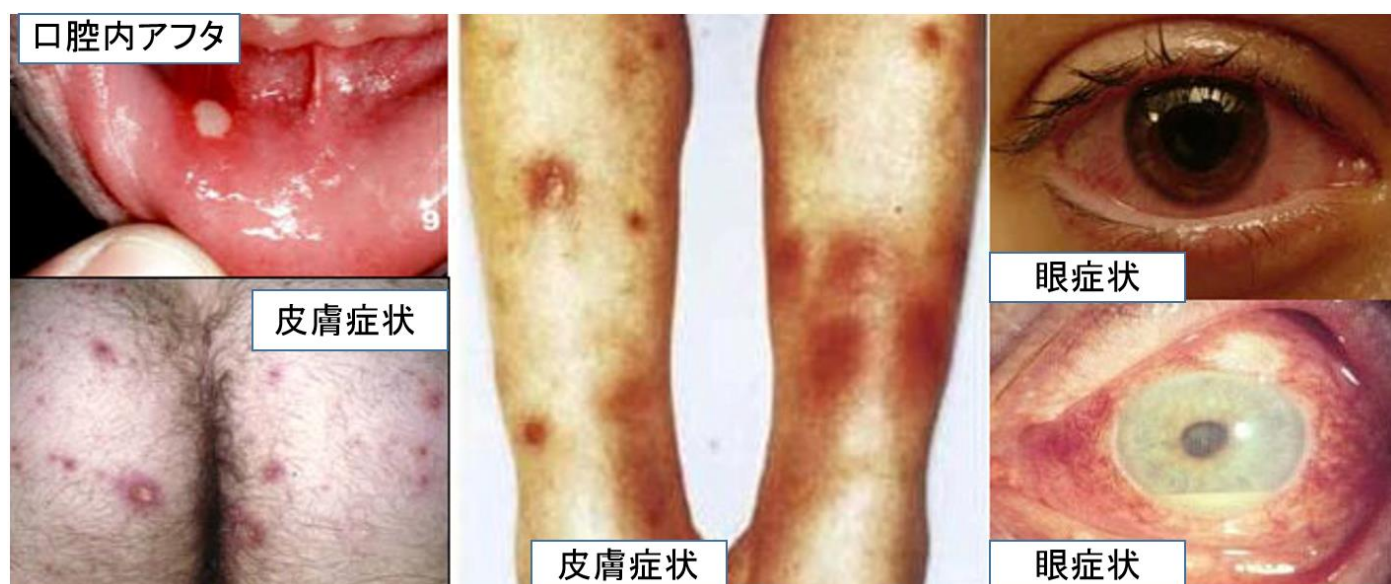
症状は、腹痛、下痢、下血、発熱、腫瘤触知、腹部膨満などで、ときに潰瘍が破れることもあります。

治療には、薬物療法、栄養療法、外科手術などが選択されます。



----- 補 足 -----

ベーチェット病とは口腔粘膜の再発性アフタ性潰瘍、皮膚症状、眼症状、外陰部潰瘍、関節炎、副睪丸炎、消化器症状、血管病変、中枢神経病変などをきたす原因不明の難治性疾患です。



ベーチェット病に腸の潰瘍を合併したものを腸管ベーチェットとよびます。

厚生労働省バーチャット病診断基準

(1) 主症状

1. 口腔粘膜の再発性アフタ性潰瘍

2. 皮膚症状

1. 結節性紅斑様皮疹

2. 皮下の血栓性静脈炎

3. 毛嚢炎様皮疹、痤瘡様皮疹

参考所見：皮膚の被刺激性亢進

3. 眼症状

a.虹彩毛様体炎

b.網膜ぶどう膜炎（網脈絡膜炎）

c.以下の所見があれば(a) (b)に準じる

(a) (b)を経過したと思われる虹彩後癒着、水晶体上色素沈着、網脈絡膜萎縮、視神経萎縮、併発白内障、続発緑内障、眼球癆

4. 外陰部潰瘍

(2) 副症状

1. 変形や硬直を伴わない関節炎
2. 副睾丸炎
3. 回盲部潰瘍で代表される消化器病変
4. 血管病変
5. 中等度以上の中樞神経病変